

IT21 の会 (平成 17 年 9 月) 第 91 回議事録

日 時 : 平成 17 年 9 月 2 日 (金) 18 時 30 分 ~ 20 時 50 分

場 所 : 日本技術士会 葦手第二ビル 5 階 A・B 会議室

出席者 : 19 名 CPD ポイント 1.0

配布資料

- ・ 0509-1 出席表
- ・ 0509-2 個人情報保護専門監査人 (黒澤兵夫氏)
- ・ 0509-3 情報工学部会のご案内 (近藤修平氏)
- ・ 0509-4 川崎防災ラボラトリー見学会のご案内 (近藤修平氏)
- ・ 0509-5 BrainGear 2006
- ・ 0509-6 電気設備パッケージ Ver 4
- ・ 0509-7 機械設備パッケージ Ver 4
- ・ 0509-8 「三次元設計の現状と展望」
- ・ 0509-9 9 期一般会計予算案 委員会状況 (長久 武氏)
- ・ 0509-10 9 期委員・サブワーキンググループ (小牛田 尋志氏)

議 事

1. 議事および資料確認 近藤 修平氏
長久 武氏

9 期一般会計予算案
9 期一般会計予算案についての説明が行われた。10 周年記念行事の積み立ては 8 期とあわせて 5 万円 (8 期補正予算額のまま) とするが、具体化のための調査費を別途 2 万円組み入れた。出席会員多数の賛成により承認された。
2. 9 期委員、ワーキンググループ改選状況の報告 小牛田 尋志氏

9 期委員・サブワーキンググループ改選状況についての報告があった。欠員のある、マニュアル管理委員、合宿委員の募集があり、合宿委員については例会で 4 名の立候補があり決定した。また 10 周年企画 WG については、新たに 1 名の立候補があった。
3. 個人情報保護専門監査人制度について 黒澤 兵夫氏

システム監査者資格のアドバンス資格である個人情報保護専門監査人制度の説明があった。8 月までに認定を受けて 50 人ほどが監査人となっている。
4. 情報工学部会の案内・川崎ラボラトリー見学会の案内 近藤 修平氏

情報工学部会の 9-11 月行事予定の案内が行われた。部会員以外も参加できる。10 月は防災をテーマとする川崎ラボラトリーを見学する。「起震車」で関東大震災級の震度を体験するのも意義がある。
5. 「三次元設計の現状と展望」 高木 英一氏

建設業は一般製造業とは異なるいくつかの特徴がある。まず、保証期間が長いこと。通常の製品なら 3-5 年というところを 20 年 30 年と保証しなければならない。次に積算、企画から施工、保守まで異なる業種の異なる会社で分業されており、それぞれ独特なやり方と必要な図面が存在する。その図面は、平面的な 2 次元のモデルであり、CAD というツールを使用して作成されている。この CAD を 3 次元化したツールはかなり以前からあったが、なかなか普及しなかった。普及しない理由としては、大きく二つある。ひとつは、役所へ提出する公式な書類などが従来のままの平面図であること。そしてひとつは、年代が高くなるにつれて 3 次元 CAD の操作を覚えることが困難になるということである。しかも決裁権を持つような年代であるために普及のネックになっているのかもしれない。ことである。逆に若い世代では 3 次元は作れても平面図をかくことができないという逆転した現象も出ている。そこで、DIM という新しい概念のもとで、3 次元 CAD ツールを構築した。それは、平面図さえ書ければツールソフトウェアがほぼ完全な 3 次元化を支援する。それぞれ異なる業種が存在するが、3 次元化された CAD 図面データから、必要とする位置、断面で 2 次元図面を抽出することを可能とした。以上の 2 つコンセプトの元に開発されたのが「BrainGear」。

配管設計では、配線を先に引き、あとで線の属性 (給水管 配水管...) を設定するという手順が良い。後から分岐を追加することも W クリックひとつで可能である。従来の CAD では、いったん分岐前の配管オブジェクトを削除し、分岐含む配管設計をやり直すという手間が必要であった。このように、従来の 3 次元 CAD とは操作性が著しく向上し特に知識無く 2 次元 CAD の経験と知識で必要な部分の 3 次元 CAD 化対応を可能としている。実際のツールを用いたデモも行われたが、単に平面図から 3 次元図面を作成するだけでなく、設計した部屋の照度シミュレーションなどの機能もオプションとして用意されている。また、作った 3D イメージをそのままカタログやプレゼンテーションに利用することも可能。最後に実際のツールを用いての実演デモが行われた。

以上 (記載者: 吉川博晴 記)